

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100094		
法人名	株式会社ハートフェルトケア		
事業所名	グループホーム くるみ(ユニット②)		
所在地	〒028-8804 岩手県九戸郡洋野町常島第7地割44番地3		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月8日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在コロナ禍であり、地域との関わりが希薄とならないように部落の地域清掃や花植え、堤防の草刈り、除雪や野菜の譲渡、町文化祭への参加を積極的に行っています。施設周辺は自然豊かなため農作業に適した環境となっており、施設敷地内の畑で春には植え付けし秋に収穫作業ができる環境を整えています。また隣接する小規模多機能ホームとも連携し、利用者間の交流や職員の急なヘルプ業務、備品物品の共有が可能となっています。2ユニットが平屋でつながっているので各利用者の状況に合わせた居室の配置や行事体制、利用者間の交流が容易にできるようにしています。関連施設には嘱託医も配備しており、施設にも看護師が従事し、日々の体調管理を行って安心した生活が出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は集落の中心地にあつて、近郊には小学校、郵便局があるほか、周辺には農協の施設や酪農農家、放牧地があり、自然環境に恵まれた場所に立地している。企業の理念や行動方針のもと、年度ごとの目標や個人目標を定め、よりきめ細かな介護サービスを提供し、敷地内に併設されている小規模多機能ホームとは、機械浴の利用など双方の機能を活かした運営が行われている。また、利用者に寄り添いながら希望等を聴き、家族への機関紙やお便りを通じて利用者の生活状況をお知らせしながら意見を伺い、業務に反映させている。コロナ禍の中にあつても、地域の清掃活動、展示会への参加、研修会への講師派遣など、地域との交流に取り組んでいる。さらに、職員会議や個人面談を通じた職員の提案を受け入れ、業務等の改善に活かしている他、資格取得の支援による知識や技術の修得、勤務条件の柔軟な対応など、働きやすい環境にも配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は分かりやすい場所(玄関前通路)に印刷し掲示しています。職員の名札の裏にも明示しケアの邪魔にならないように携帯しております。「おもてなしの精神と、真心を込めた福祉サービスを通じて、健康の増進・向上を図り、生き甲斐と幸福を感じていただく福祉事業の現実を目指します。」を実現させる為に、各事業所で重点目標を立て実施しております。また、業務分担表にも月ごとの目標を設定し表記しております。	法人で定めた企業理念や行動方針等を職員会議等を通じて共有し、年度目標や個人目標を立て、日々の業務の中で重点的に対応するほか、利用者に寄り添い要望等の聴き取りや体調管理を行い、利用者の意向に沿ったきめ細かな介護サービスを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりが希薄とならないように部落の地域清掃や花植え、堤防の草刈り、除雪や野菜の譲渡、学校行事の参加依頼、町文化祭への参加を積極的に行っています。	コロナ禍にあっても、集落の清掃活動や小学校前の花壇の整備、文化祭への出品、小学生のマラソン大会の応援、インターシップの受け入れ、研修会への講師派遣など、地域との交流に幅広く取り組んでいる。また、近隣住民の方から野菜の差し入れ、駐車場の除雪などの支援を受けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町文化祭や地域清掃作業など通じて事業所としてのあり方を少しずつ理解していただくと共に、大野中学校からのインターンも受け入れたり、1月末には大野高校へ出張し介護情報を発信する予定です。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度からのコロナ情勢により施設に集まる運営推進会議は行なえていない状況です。地域の有識者の皆様には利用者様の日常や行事風景を報告すると共に運営推進会議を開催できる時期が来たならばご協力を得ながら情報共有、意見交換、見直しの場とさせて頂きたいと考えております。	運営推進会議メンバーは、地域包括支援センター及び8名の地域住民代表で構成されている。書面会議の形で開催し、電話で地域住民の委員から「コロナ対応について」等の意見があり、職員の出退勤時検温・1日2回の利用者検温・手すりやトイレの消毒などを行っている。	委員からの書面による意見や照会、対面での助言、提案などを活かしながら、より一層の業務の改善等に向けた取り組みを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通知文やメールなどの情報を参考にさせて頂きながら、洋野町や振興局、久慈市主催の集合研修・リモート研修にて情報なども共有させて頂いております。	町からの情報は、文書・メール・防災無線で得ている。町主催のケア会議に毎月介護支援専門員が、その他の研修会には1、2名の職員が参加している。町直営の地域包括支援センターが、相談の対応窓口となっている。また、介護職員の研修会には事業所から講師を派遣している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所マニュアルに基づいたケアの実践を行っています。また委員会や内部研修を通じて、自分達が実際行っているケアを基礎から見直し、利用者様の尊厳を保持し、負担とならないように努めております。(声掛けやセンサー設置の検討)	法人内の関係事業所職員による事故身体拘束委員会を毎月開催し、検討内容を職員に周知している。特に、利用者への声掛けに配慮し、不適な例があれば、改めて会議の席で報告し注意を喚起している。身体拘束の事例は無く、玄関の施錠も夜間のみとしている。一部の利用者が離床確認のセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する情報を収集し委員会・研修会を通じて学ぶ機会を持ちながら理解と予防を図っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会・研修会を通じて学習し理解を図っております。また、支援困難な方には、成年後見制度(現在は1人利用され追加で1人を検討中)を活用して行く事も視野に入れ関係者への情報を提供し調整してます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時または法改正等の際には、ご家族様と施設とで契約更新を行っております。その際に不明な点などのお伺いを立てております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時またはケアプラン作成・更新の際には、ご利用者様、ご家族様の希望確認や現状生活での要望、入居後の生活形態などの意見も頂戴しながらプランに反映するように配慮しております。	面会の際に家族から意見等を聴いているほか、4ヵ月毎の機関紙、2ヵ月毎の居室担当者作成の手紙により利用者の生活状況を知らせしながら、意向を伺っている。家族からは症状や心配ごと等の電話連絡がある。遠方からの来訪者の面会や家族との外泊、お手伝い(畑作業など)には配慮している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務カンファレンスと各ユニットのケアカンファレンスを開催しております。その他、申し送りや日々の中で個別に意見を聞き取るようにして、ご利用者様に必要な対応においては、優先事項として検討しております。職員意見:「ヒヤリハットの確認、重要な申し送りの仕方、畑の増設、施設外清掃、勤務形態について、」等	職員会議や申し送り事項(パソコン搭載)で、職員の意見等を把握しているほか、年1回、業務全般・運営・同僚との関係などについて職員と個人面談を実施している。地区清掃の順番、更新研修費用の事業所負担、風呂用車いすの買換え、ごみステーションのライト設置など、職員の意見や提案を取り入れている。ヒヤリハット報告書を紙ベースで印刷し、朝の申し送り時に確認する取り組みも職員の提案によるものである。また、資格取得の支援を行い、知識の習得、技術の向上による介護サービスの充実を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、個人の思いを聞きそれを尊重しつつ、より良い職場環境を作る事を心掛けています。最低年1回(夜勤者は2回)は健康診断を行い各職員が率先して体調の管理を意識づけるようにしております。また、誕生日月には特別休暇(2日)を実施しております。皆勤手当や職員評価の検討。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	令和2年より外部からの講師を招いての研修は見送りとしています。会社方針にて感染対策を徹底するようにとのこと。代わりに関連施設合わせでの職員聞き取りにより内部研修を計画しております。外部機関でリモートによる研修も取り入れて行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和2年からコロナウィルス対策で外部との接触は極力させている状態です。感染防止に努めた上で極力少数(1人)での外部研修には希望職員が参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には、なるべく情報を密に収集できるように努めております。また、利用者様やご家族様に施設見学を促し、本人様には入居の意思、入居後の生活の送り方を聞き、不安を取り除けるように努めています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や説明を行ない、ご家族様の中で何が不安か明確に確認しつつ、解決に向けての優先順位を共に考え、回答する努力を行っております。主に利用料や外出、外泊についての要望が聞かれます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談受付段階で、ご本人様やご家族様の課題解消に向けて自施設のサービスで出来る事、事業所のサービスで出来る事の説明や待機者登録後の支援方法のアドバイスをさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	希望を訴えられる方はできる限り傾聴し不安を取り除けるように声掛けを多めに行って支援しています。他、ご利用者様同士で共に行動、時間や感覚を共有できるように支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主介護者の方に高齢化、遠方在住、障害を持った方もおり面会が困難な方は、2～3カ月ごとには現状の健康状態や日常生活を連絡、お手紙を送付させていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事や通院時の帰りに利用者様に応じて、思い入れがある場所を訪れ確認しながら対応させて頂いております。また、馴染みの美容室や商店、食堂を利用させていただいております。(美容院:2ユニット利用者様1人、商店:2ユニット利用者様1人)	知人、友人の来訪は制限しているが、親戚などの面会には、柔軟に対応している。敬老会記念品を地区の方が届けてくれたり、墓参や自宅訪問をする利用者もいる。入居前に自宅で作っていた豆しつとぎ・クルミ白子餅など、懐かしいおやつを作ったり、DVDでナナドラを放映し、流し踊りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月行事(誕生会やおやつ作り、運動会、生け花、塗り絵)等を開催しております。四肢の不自由な利用者様には職員が付き添い負担を感じないように配慮しております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や医療ケアの重度化によりサービス終了となる場合にも、ご家族様に経緯と希望を聞かせて頂き、希望の内容によって事業所が関われる事を汲み取って相談に応じさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の背景を理解したうえで日頃の生活を観察、会話ができない利用者様についてはご家族様からの聞き取りや声掛けによる仕草を読み取って要求をまとめ、それをもとにケアカンファレンス、サービス担当者会議を開催しております。	職員は「カレーを食べたい」「遊びに連れて行って欲しい」などの利用者の希望を、日常の会話から聴き取っている。利用者が話しやすいように、職員の方から提案する話しかけをしている。畑作業や洗濯たたみ、庭掃きなどのお手伝いのほか、切り絵、塗り絵などの趣味、チラシ掲載の料理の提供など、会話や表情から意向を把握して対応している。衣服などは、季節に応じて配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを活用し都度、御家族様より情報があつた場合は更新し、内容を見直して計画に反映するように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルサインのチェック、下剤等の服薬状況、朝、夕の申し送り等において情報の共有を図り、不調の訴えができない利用者様についてはこまめなラウンドや表情を観察し状態を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員協力の元、利用者担当及び介護支援専門員が経過観察と記録を行ない、ご家族様の面会時にはできる限り状況報告と家族様の希望を確認して介護計画に反映しております。また毎月のケアカンファレンスを各ユニットごとに設定して話し合い、細かな問題点や意見を精査し介護計画に反映しています。特に重症化しそうな方は重点的に話しあい早急に対応しています。	短期計画は3ヵ月、長期計画は6ヵ月を原則とし、毎月個人ごとにカンファレンスを開催している。カンファレンスは、3日間をかけて実施している。介護支援専門員は、利用者担当に確認しながら、体調面で気になる方は医師の助言を取り入れ、モニタリング・評価を行い原案を作成している。原案は、家族の面会時に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で体調や精神面、認知症状の変化に応じて職員間で情報を共有し合い、ケアカンファレンスにおいて話し合ってケアプランに反映するようにしています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の買い物や美容室の利用、状況に応じて外出対応を行っています。受診は御家族様の同行希望によっては、送迎も可能としています。介護申請や生活保護の書類で希望があった際には、代行可能な物については手続き協力を行なわせて頂いております。郵便局への振り込み変更手続きを確認しご家族様と同行しました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や小中学校との関わり、地域商店、産直での買い物などで外出機会を増やしております。ただし現在はコロナ過で部分的に感染拡大している地域もありますので、人数があつまる事は極力避ける様にしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様には納得されたうえで関連事業所(じょうないクリニック)の定期往診、通院を行っております。また、受診内容は必要に応じてご報告させて頂いております。	協力医による訪問診療9名、入居前からのかかりつけ医受診9名で、家族の要請により職員が同行しているが、医師の指示により家族が同伴することもある。精神科、整形外科などの特別科も同様である。受診の際には、バイタルチェック記録の提供のほか、申し出事項の記載、受診後の結果などを記録した受診表を作成し、家族に託している。歯科も協力医が対応している。利用者情報及び受診結果を「受診準備及び診察録」で管理している。令和4年4月から看護師が配置されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の方やケガ、状態に何らかの不調がある方は、施設の看護師に報告し指示を仰いで必要ならば関連事業所を受診する体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院毎に施設利用規約で3ヶ月の待機期間がある旨を医療機関に伝え、その間で情報交換をしています。ご利用者様の状態やご家族様の希望に寄っては今後のケアの方針や猶予期間も話し合いにより配慮できるようにしております。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた話は入居時と定期的に本人様と御家族様の意向を確認させて頂いております。これまでに、継続的な医療処置、より一層の専門性から他の医療機関や関連施設へ移設されたケースもあります。	看取り経験はあるが、近年は看取りはなく、経験者は現在2名となっている。入居時に看取りに関する指針を示し、年1回リビングウィル(医療に関する事前確認票)を実施し、家族の意向を確認している。重度化、看取りに関する職員研修は実施していないが、看護師が配備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、事象が生じた場合のテーマを定めて救急対応の勉強会(内部研修)を開催して実践しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、併設の小規模多機能ホームと災害対応の確認や見直しを図り、半年毎に非常食、物品点検を行っております。年2回の避難訓練は日中、夜間想定、双方1回ずつ実施しております。ユニットごとに利用者の避難優先度を決めて対応しています。 また、年1回緊急連絡時の伝達時間を抜き打ちで行っております。「4月実施:約11分」	ハザードマップでは、表層土砂崩れ地域となっている。近くに小さな沢があり、指定避難場所の公民館は、沢の向こう側に位置する。火災想定のお知らせ・避難訓練を年2回実施し、職員4、5名を一組として三系統に分けた緊急時の伝達訓練も実施している。1週間分の冷凍食品、発電機1台、反射式ストーブ2台、カセットコンロ2台を備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や言動に応じて、対応している最中でも相手に不快のないように留意しながら、わかり易い言葉で対応する事を心掛けております。何気ない会話でもプライドを傷付けない様に留意しながら本人の希望を聞き出せるようにしています。特に入浴時には希望を聞きやすく、要望があった際にはすぐに職員間で共有できるようにしております。	個人情報マニュアルがあり、個人情報は紙・データで管理している。居室へ入る際は、声掛け、ノックをして入っている。入浴時の異性介助を拒む方には職員を変更している。水分の過剰摂取の利用者には、仲の良い他の利用者と一緒に飲むことを勧め、出来たことを褒める取り組みを行っている。方言で話しかけることもある。失禁の場合は、声掛けなどに注意しながらそれとなく誘導し、居室での交換、シャワーなどで対応し、利用者の心情を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解を得やすいように簡単に明確に伝える工夫を行ない、本人が希望を訴える際にはできる限りの支援を行っています。希望を訴えることが困難な方にはこれまでの生活歴を元にケアを行っています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の基本となる起床から食事、入浴、活動、静養、就寝などでサイクル作りが出来ている方に対しては声掛けにて変更希望があれば、ご本人様の嗜好に合わせて対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝には洗顔、整髪、髭剃りなどもちろんの事、希望に合わせて化粧品の調達、床屋、衣類の補修なども行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雰囲気作りで音楽を流したり、テレビを鑑賞しながらの食事できるように配慮しています。円卓を囲んでの食事となることから職員もケアを行いながら一緒に会話をしたりしての食事となっております。	昼・夜は調理担当、朝は夜勤者が調理している。食材は近所の商店の配達と不足分は職員が購入している。メニューは調理担当と介護職員の2名で決めている。利用者は、茶碗拭き・食材皮むき・下膳・エプロンたたみやおやつ作りに参加している。郷土料理(南瓜のいとこ煮など)、行事食(天ぷらなど)、誕生日食(赤飯など)があり、行事に相応しい食器を利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量の把握や個々の咀嚼、飲み込み能力に応じてトロミを付けたりミキサー食の提供を図っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方、動作の促しが必要な方に毎食後に行ない、口腔状態の把握に努めております。異常が見られたり不調がある方に対しては歯科受診にて対応させて頂いております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄リズム、排泄動作を把握した上で対応方法を検討してから具体的な支援を行っております。本人様の排泄の訴えがある方は、オムツ着用せずに紙パンツとパットにて対応しています。その際にはご家族様にも連絡しております。	トイレ誘導は、食事前・就寝前・起床時の他に、排泄チェック表により個別に誘導している。5人の全介助おむつ利用者以外は、布パンツ、リハビリパンツに尿取りパッド併用となっている。排泄の失敗時には、「ちょっとお部屋へ」と声を掛けて誘導している。こまめなトイレ誘導により、尿取りパッドが外れリハビリパンツのみで過ごすことが出来た事例がある。自立者は4名となっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	口腔体操やレクリエーションも取り入れながら、排泄能力維持と便秘日数に応じた予測をもとに水分を多めに提供しています。牛乳やヨーグルトなどの乳酸菌の摂取や入浴時の腹部マッサージにて対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を入浴回数とし、必要であれば毎日の足浴などを実施しています。基本設定は行っておりますが体調や希望に応じて変更をかけています。2ユニットの利用者様は特殊浴槽での入浴者が多く午後にゆっくりと入浴できるように支援しています。	入浴は3グループ(月木・火金・水土)で、午前と午後に行っている。小規模多機能ホームの特殊浴槽利用者は、午後の入浴となっている。個浴では1対1で昔話をしたり、入浴剤を使用している。本人用シャンプーを使用したり、浴槽に熊の温度計を浮かべている。脱衣室には電気ストーブを付け、夏場や雨季は足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活のサイクルが出来ている方や昼夜逆転傾向のない方へは、本人様の希望に応じて休息や臥床を促しています。安眠に向けてストレスが溜まらない様に個別に支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診毎に薬の処方日数や、変更の記録をファイル管理して周知に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活状況をもとに役割(清掃関連、単純作業)を設定しています。塗り絵が好きな方やお盆を拭く方、行事には歌を披露されるかたもおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数参加型の行事計画を立てたり、個人の希望が対応可能な場合(受診後の買い物など)には、その場所に外出援助を行っております。地域の行事や協力依頼にも可能な限り対応できるようにしています。	職員の畑作業を見ながら利用者は、日向ぼっこをしている。花見には、福祉の村隣接の公園で桜を見て、道の駅で食事・見学をしている。小学校マラソン大会の沿道応援、玄関掃除、受診後の地元見学などを行っている。家族と外泊する利用者もいる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の管理能力や、ご家族様の同意を頂き自己管理(おこずかい程度)されている方もいますが、大半は施設の立替で対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様に連絡をしたいと訴えられた場合は電話を行なっています。また、2カ月に1回、手紙を郵送しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じて、換気、照明やブラインドカーテンの明かりの調整、空調の調整を図り気温や湿度は毎日確認、加湿器も配備しております。寒暖差がなるだけない様に夜間帯はトイレは開けることや、更衣室には電気ヒーターを常備しています。(設定気温:24度、湿度:50～60%)	大型の引き戸からの光で、ロビーは明るく、テレビ、カラオケ、食事用テーブル、ソファがあり、壁には手作りの作品や活動の写真、季節の飾りなどが貼付されている。利用者は、それぞれの場所で趣味やゲームなどで寛いでいる。温度はエアコンで調整され、加湿器付き空気清浄機が備え付けられている。現在、床暖房は使用していない。手すりに沿って廊下を歩くことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホール環境を活用して過ごして頂き、ソファなど分散しそれぞれが自由に居場所を作れるように環境も配慮しております。寝たきりとならないように希望を聞きながら離床介助しホールへ誘導すると利用者同士で談笑されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様、本人様と相談し馴染みの家具や自身に深いかかわりがある物品などの持ち込みで、できる限り環境が自宅と同じように配慮しております。	ベッド、クローゼット、テレビ端子があり、ラジオ、時計、衣装ケース、家族写真、位牌、ぬいぐるみなど馴染みのものが持ち込まれ、ベッドは利用者の意向に沿った配置となっている。入り口のドアに、手作りの切り絵に名前を貼付している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内の通路全般の環境整備を心掛け、危険物、障害物に対して配慮しております。また居室を間違えないように必要であれば名前をつける等の工夫をしております。		